

Ⅰ 経営の重点に関すること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体もたくましい蒲原の子	思いがつながる・遊びがつながる・人とつながる	周りのひと・もの・ことに関心をもち遊ぶことが出来ている	・子どもの遊びやあそびの経過をみとり、環境の出会い合わせ方(タイミングなど)を工夫したことで「やってみよう!」「できるようにしたい!」という気持ちの育ちが見られた ・子どもの興味関心が継続し、その遊びが展開するように子どもの心の動きを迷わず開く必要がある	B	A	・蒲原東小も「つながる」を目標にしている。小学校がこども園の隣に移転すればもっとつながる機会が増えると思う。地域に触れたりつながることで大きな学びが得られる	・保育者が子どもの「やってみようかな」という思いが引き出せるよう興味関心に応じたきかけ作り ・自分の思いを表出しながら友達思いにも気付けるよう保育者が代弁するなど、相手を意識していく
		相手を感じながら自分の思いを表出することが出来ている	・友達と一緒に遊ぶ中で自分の思いを表情や仕草、言葉で表出できているが、友達にも思いがある事には気付けない。保育者が思いを代弁するなど相手を意識できるような保育者の働きかけが必要である	B	A	・小学校では異年齢の交流の時間を設定し縦のつながりを作っているが、園では自由遊びの中で異年齢が自然に関わりとても良いことだと思う	・乳児と幼児の遊びを月反着時に出し合い共有しながらももっとつながりが深まるよう話し合いをしていく
		温かい見守りの中で、失敗しても繰り返し挑戦したり試したりしながら生活や遊びを進めている	・失敗すると泣いて伝えにくる子もいるが、保育者が気持ちを受け止め悔しい気持ちに共感したり一緒に取り組むことで成功体験につながり、安心して繰り返し挑戦する姿がある。声掛けの工夫や意識が高まるきかけ作りをし自信につなげていく	B	A		・できるできないだけの評価ではなく過程を大切に ・自己肯定感を高め自信をもって意欲的に遊びに向かえるように関わっていく

Ⅱ 各領域に関すること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各年齢の発達や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、適切な援助を行っている	・公開保育や園内研修で意見を出し合う事で、子どもの発達の捉えや今必要な経験、育ってほしい姿、保育者の関わりについても職員間で意見を出し合い共有している ・今の子どもは、願う子どもの姿に近づいているのか教育課程を見直し、援助方法を検討していく必要がある	B	A	1-(3) ・広大な園庭を利用して地域や保護者の方々と一緒にみんなで遊べる魅力的な環境を作り上げたこと ・季節の行事を家庭で経験するのが難しいこともあるので(イロシを焼く、ういかしがしを作るなど)良い経験だと思	・教育課程を見直しながら発達をおさえ、今の子どもの実態が願う子どもの姿に近づいているかを分析し援助につなげていく ・他学年の週日案や月案を閲覧できる場を作り、環境図を活用しながら縦のつながりを意識できるようにする
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	様々な家庭や生活環境で育っている子ども達がいることを理解し、園で安心して過ごせるような関わりをしている	B	A	・多様化する家庭環境、子育て観へのアプローチや対応が難しくなってきた。子どもが安心して過ごせるように必要に応じて面談を実施したり個々に合った関わりを継続することで個別最適化をはかっている	・保育者の価値観だけでなく地域を巻き込み共通理解をしながら支援方法を考えていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達を主体とした探求のきっかけを丁寧につなげ関わっている	・子どものつぶやきや姿から遊びの楽しさを探り、次につながるような環境との出会い合わせ方や必要なモノを考えている。しかし、子どもの姿からの見取りが弱いので子どもの思いを捉えて必要なモノや場を子どもと一緒に準備していく	B	B	2-(1) ・蒲原東小学校では災害時(特に津波)の避難先に悩む時がある。地域の中でどこが海拔が高いのか等の情報を得ながら避難先を決めていきたい ・地域と協力し蒲原地区での減災教育研修を実現したい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な状況を想定し訓練を行うことで全職員が非常時の対応ができる	・不審者訓練、避難訓練を様々な想定で行い、前回の反省点を活かした避難が見出すようになった。職員間で危機意識の差があるので様々な訓練や園内研修を行い、職員一人一人の危機管理能力や非常時の対応力を身につけていく	B	B	ドキュメンテーションでの発信はとても良く見ている。コドモンで配信してほしい ・子どもの様子は文字でも読むが写真の方がわかりやすい	・災害に対して職に関係なく全ての職員の意識が高まるよう予告なしの訓練を積み重ねていく ・減災研修などの学びを共有し避難方法などのアップデートをしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	身の回りのことを自分でできるよう年齢や発達にあった関わりができている	・保育者が個々に合わせた関わりを実践したことで、自分の事は自分でやってみようという意識が高まっている ・できるようになったことや頑張っていることを保育者に認められることで自信がついてきている。家庭との連携を深め保護者と共に支援していく	B	A		・園での生活の様子を保護者にわかりやすく発信し、家庭と連携して同じ関わりや援助ができるようにしていく。また、個々に合った支援を継続していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員間で気になる子支援の必要な子に対して理解と関わりを共有している	・気になる子の姿については十分に共有はできた一方で、職員だけで支援方法を見出すことに困難を感じる事があった。子どもと保護者の多様化に伴い専門機関に助言をもらいながら園としての方向性を話し合い決定していく必要がある	B	B	・地域の回覧板や「広報かんばら」などを利用することも園の取り組みを地域に発信していくと良い 8-(1)学校は発信方法に限られているが、コドモンは様々な発信をするツールとして有効活用していくと良い ・クラス担任以外の職員も子どもの様子を伝えてくれるので安心している	・支援サポート強化事業に参加し園全体の支援体制に関する質の向上につなげていく ・毎月の会議で気になる子の実態や支援方法などの共有をしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の分掌・役割に責任をもち、組織として協力し合い、同僚として助け合う関係になっている	・各分掌が計画的に活動をするため、会議で翌月の取り組み内容や進捗状況を確認し共有しながら取り組んでいる ・同じ職員が企画や準備等を行うことがあったので、分掌内だけでなく他職員にも発信し、役割を理解しながら一緒に進めていく必要がある	B	B	・保護者アンケートでの課題に対する園の思いや意図、取り組みを保護者に発信したらどうか 9-(1) ・コミュニティスクールなどそれぞれの小さなつながりが大きな一つになるような場を作っていく 10-(1) ・S型サービスの参加をきっかけに近所のお年寄りに声をかけられるなど地域との交流が広がっている	・分掌のリーダーだけでなく声を出し合い職員全員で話し合い準備や確認をする
6 研修	(1)研修体制の充実	園内外の研修に多くの職員が参加し、それを職員に報告、共有し自園の教育保育に活かす	・園内研修では、職員それぞれの得意分野を活かした内容を実施し、保育の引き出しが増え新しい学びを得る事が出来た ・様々な勤務体制になっているので研修日より動画を活用し、全職員が情報共有できるようにした学びを深められない時もあった。時差で研修を複数回計画するなど工夫していく必要がある	B	B	・コドモンを活用しておたりやドキュメンテーションで教育保育が伝わるように発信している。コドモンだけの発信ではなく、個別で様子を伝えるべき必要がある時は保護者に個別に伝えていく	・研修で学んだ事を活かす為、自園ではどのように取り入れていけるのかまでを考え、学びを活かしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの思い満たされ発達にあった室内外につながるのある環境がある	・園内研修や公開保育等を通して保育環境について話し合い、環境の再構成について学び合うことができた ・日々保育をしていく中で担任間で環境について話し合ったり、環境を見直したりする時間の確保が難しい	B	B		・発達に合った環境作りができるよう子どもの思いに耳を傾け、子どもの思いを捉え子どもと一緒に環境を作るようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	写真や動画、コドモン等を活用し保護者に教育保育が伝わるよう発信している		A	A	・お米の成長に興味を示し、成長の過程を児童館に見に行きたいなど言い関心が高まっていた	・写真だけでなく保育の内容まで意識してもらえよう、コドモンの他に個別に声をかけ様子を伝えるようにする ・伝えたいポイントをわかりやすくまとめ端的な言葉で保護者に伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園の公開保育に参加し自園の教育保育に活かしている 私立園にも公開保育やサポート支援研修等で公開していく	・蒲原東小学校教諭による科学遊びや手洗い指導などの訪問授業でつながりの基盤作りができている ・近隣園の公開保育やサポート支援研修への参加、様々な専門機関との連携の中で、個に合った環境構成や研修の進め方などの学びがあり、活かせるところを取り入れることができた ・職種に関係なく全職員が公開保育等に参加しながら交流の機会を作り、さらなる関わりを深めていきたい	B	A		・地域の私立園へのアプローチを継続し、公開保育に参加し合うなど地域のつながりを深めていく ・蒲原東小だけでなく、私立園、西小や中学などとの交流も深めていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方たちの力を借り子ども達も心が動かし直接体験が出来ている	・散歩に出掛け地域の人と挨拶を交わしたり、地域の自然にふれたりすることができた ・S型サービス、勤労感謝訪問、工場見学、買物体験等での関わりから地域の良さを知る事ができた。乳児も経験できるような園を訪問してもらうなど交流方法を検討する必要がある	A	A		・すこやかセンターの会議に参加し、地域の情報を取り入れ活用していく ・地域の方を園内に招き入れ、年長以外の子どもも地域の特色を生かした交流ができるようにする